

# 環境配慮へバイオ活用

## ごみ収集車を試験運行

秦野市

秦野市は、家庭から出された廃食用油をリサイクルしたバイオディーゼル燃料(BDF)を使ったごみ収集車一台の試験運行を二十日から開始した。市清掃事業所は、環境対策としてごみ収集車の燃料に天然ガスなどを導入してきたが、BDFは初めて。効果があれば、使用台数を増やすとしている。(久保木 信夫)



同市内では婦人会などの協力で、年四回、廃食用油約四千五百リットルを回収している。しかし、市民が紙や布

に染み込ませてごみとして出す廃食用油量は月に三、四トあるとみられている。このため、ごみの減量化と

廃食用油の再生を市民に知ってもらうと、BDFの収集車を使うことにした。伊勢原市石田の鈴木油脂(鈴木靖夫社長)が再生している。試験運行用のディーゼルエンジンの収集車にまず三十リットルを給油した。BDFは一リットルあたり百円で、従来の軽油燃料と比べ、十円程度安いという。

鈴木油脂は廃食用油の処理を月五百リットル掛けており、製造コストは一リットルあたり六円ほどかかるという。紙や布に染み込ませ捨てられたり、河川に流されたりする廃食用油が適正処理されるよう協力している。

市清掃事業所では、環境対策として所有する収集車二十一台のうち、十三台が廃食用油をリサイクルしたバイオ燃料を給油したごみ回収車

した。夏を思わせる日差しの中、参加者たちはグループごとに雑草の刈り取りなどに汗を流していた。約2時間の作業で、雑草などの可燃ごみ590キログラム、瓶や缶など約1キログラムに達し、県や市が収集車で回収した。同婦人会では、1997年から5月に草刈りを実施しており、今年で13回目。

(久保木 信夫)

## 婦人会員らが 歩道清掃に汗

秦野市

地域の歩道をきれいにしようという清掃活動が20日、秦野市の県道曾屋鶴巻線の東海大北門交差点から鳥居松橋西側交差点までの約1.5キロの間で行われた。

参加したのは、同市大根地区婦人会(千嶋八重子会長)のメンバーに県と市の職員を合わせた約100人。県道上下線の歩道に設けられ、ツツジなどが植えられている植栽帯の雑草の草刈り、不法投棄されたペットボトルや紙類などを収集



植栽帯の雑

天然ガス車、四台がハイブリット車、四台がディーゼル車にしてきた。今回はディーゼル車の一台をBDF

で運行することにしたが、毎日の作業の中で効果を見極めたいとしている。

会社三  
類送給  
発は信  
書島